特別
ヘ12
4327
30

うぢ拾遺物語

巻下之三

播磨のくに

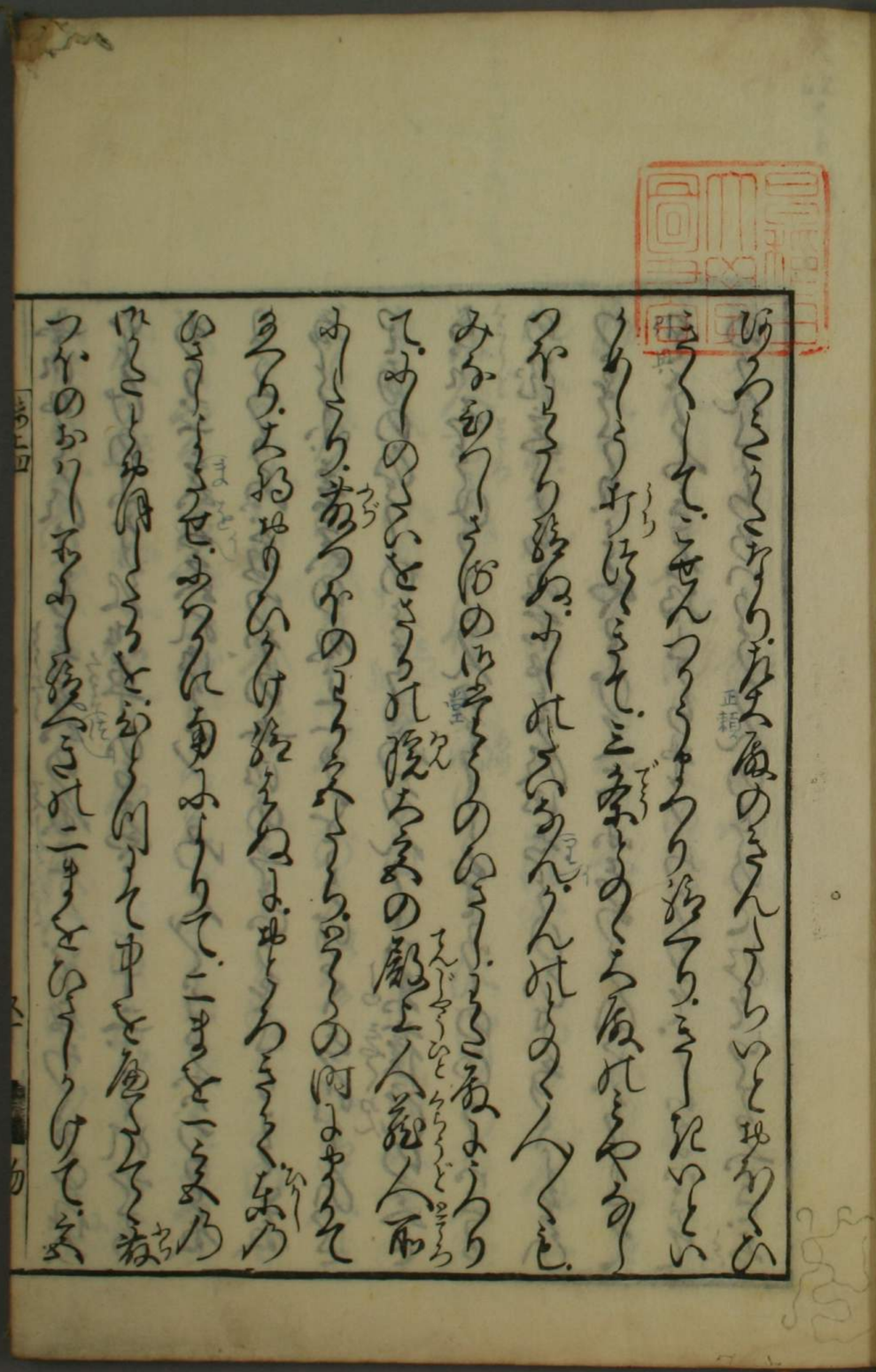
ウヨリオリ玉フ五十三フ　○カラカサノエセ十九ウ
大ミヤオロシ奉リ五六モ　○セヌワサ〳〵六九ト
ロウノカミ八十ウ
ゑ月々年年。八十九
ゑ月々かゝみ。八十ロ
次ノ巻女大夫のアリ廿。八十三ムユ　○二陵ノ朱サリ
○七十二ゑて五十　ヲ月ゑ五十二乃　サカノサシセナニ五十二乃
○二十ヨリ五十四ユ　ゑ月ゑ五十二乃
○大宮ノメテタサアテ宮ノナゴノ片ニ廿リテ五十五ヌフ
○ウヘノてるナル人五ニス

197

け巻按合青色ナルモノハ證本ハ
朱カキ〻

門ヘ12
4327
30

昭和四年四月一日
高田早苗氏寄贈



如此ゆくうちに三文の屋上へいでゆくまつわり
いとけのふければ車ひきやうを十二ばかりにて
あり二文ちかばかりにてこれにてろ
よくうちぬ歩つかの女はのやいうをしろうと屋
るとふ三文の屋上一まをうけくちりしいさ
ま面のひとつのこそ乃かんりい未薩渡のあさ
ちれこそひうらんのそこをみーのひそーいさろ
の流ふうちあれはゆくひさるくそひ
つきくり。ちやうけてこふちつくしくてて
ま三つきちねしこちゆくりてこらよいさて
のうんこちあいうらんのものこはそいてうさ

敗ちれの中くも流のこ乃れてまさいかりて
さうんちのふ一流いさろの流れたりやめとて
ゆくのちよれこそいうんあるてさみくおりて海さ
んちゆ。ちんうーのこそ。一流おりて海うん屋上
義人而よきれちゆくちれ行こくみの
このこいけるこ海つち屋ちのこう
れこれのこちこ海みこみゆよ。
くりるくゆりうくゆくくこゆくこのこ
こくやるゆくゆくこうみえこさゆうつう
かちあこもこ松こもこのこれこるこさ
ゆやちここいるこゆこみこゆくこと屋

如此地獄にうち堕ぬる人の後に人間に出ぬれば
いとけのふかさ八尺四車ひろさ十二ぢ成べし
あり。二人ともに成べしとて乃ち人間にうまれ
ようとうまれぬ。業つよかの女はの中にうまれ
ぬ。其人の母一まをうしなひくちをしみ
母の胸のあたりにひとりの小蛇の
ちいさきひとりうんのうちにみしのひとりいさ
の流れのうちにあるひさごをひきあげてこれ
つまをうしなひてこふるつくしくてこれ
母をうつくしきをねるうちゆいてらよいて
のうんのうちにのこりそいてうつくしきを

敢なき花の中にも流れの上乃ちはてまさいかりて
さうんのうちにあり。一流いさりの流れたりやめとて
流れくのうちよりいさりのうんのうちにおりて海さ
んとて流れ人のうちのこを。一流おりて海うん後上
義人あるよりそれ乃ちゆくりしに所をみる
みのうちいけるみ中島海つり後の人の流れの
ぬきたれたのうちにうちのうちにあるみをみる
うちうちにうくりうくりうくりうくりうくりうくりうくり
とうちやるし流へくに後りうみうちうちうちうちうち
かなうちあるもこれもあるものこれうちうちうち
ゆかりうちいるとうちみるとうちうくと花

のうぬ。みぐしをゆりつさふひ地ひりみち
の本ととあ。ふちつかを結よ。大夜をいつあ
上らゝゝゝつゝをとうゝゝとゝをわれゝをおえう
うをあつれるゝゝんに酒伯乃(かか)ゝゝせつてむりし
くゆやをゝん。うゝすゝとゝやり結よ。いゝふうゝを
ゆりうくみ結。三ゝゝ(ゝ)ゝ中地わをゝんと。安陪の(仁土豊殿)
ゝ。ゝゝゝ

のうぬ。みぐ。ろく。ゆりうさふうひ。ゆひみち
の。ゆ。ゝ。ゝ。ゆ。ゆ。ゝ。ゆ。ゝ。ゆ。ゝ

うちそやうの文殊のうつくしみされあそむきたるゆゑ西や
とのつまりたれへさくらの山のまそたくたり
ゆくるとも一段よりちひさきたる人ぬつこの
みくたたのあそんのいたりまうたりゆ
しうとうもたるはまたしやゆんゆのこれ
はさたれへりさんとしらてふりとれ百人
ゆうゆとうしゆつくるてあそこくくゆ
まくんみもれゆくはかりてとりふゆをまい
あくあくあくくひくくやゆくんとゆたゆ
うもたくうあくみもちくくねはあうう
のゆくさんまゆくうのあくんさゆ

くそゆたゆくうくうあくうあくうのんたくくうあ
とあくんくゆあくりあくくをみもれあ
るへくあくあくゆくうくゆくくくくくあ
れむくまくうたくたくあくくくくあ
るくくくりゆくくまくくくくれくくくふくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくあ
くくくくくくくくくくくくくくくくくくを
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

れのうりうくわとうにしらよいゆれうこうこ
るのこんたのゆくこんゆ源頼朝卿義人が將軍ふこ
さくいこんにはゆのくこと[illegible]こんこゆてけいに
こうに[illegible]こんこいこと限にいこてみいこ三に町やて
こてこうこくこのこうこ人ここみこるくこ[illegible]
こうこてここのこうこ酉ふこうこゆこ穂こ[illegible]
人こみれこのここうふこうこゆここ一張にこんこて
ここ皆辛張こうこここここけやこうこくここりこゆこうこいここ
こここここここここゆこうこここれこいこここ中ここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ

こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ
こここここここここここここここここここここここここ

兼正右　正頼左

正彰

兼秋

紐

長

樓

ゆきて　いみじう内侍のすけにふみのせうとなど
のたまはせたれば　ものしうもあるかな
らひ給ひ　人くなどもあるべきことにふみ給ひたのゆきとて
ものくるしうゆかしがりたれば　さの給ひてなれば　えの
文のいて車内侍の一條のそいぬえとゆかせ
らるれば　をかくたのゆきいとこまやかにふみとる
たのゆきく内侍のすけにふみとれば　ものしうもあるかな
きさらいるねえいりのとくしたたねのわそんゆふ
も弟とこよいえしきのけふたたねるうるさ
うるさうもやくるしきの給ふ　いたれてすらうのもとこ
のりくてて　おくてあの給しうさ帳ともれ人の

正彰

兼彰

紐

長

樓ヨリ

ゆきれうとつくくうとくいろ人とそのうえ乃とう
さくくうきといねえ　文
すきうふぬの物してくくうくくれのみしうれ
人くうの乃くげうれたきゆうりかうくく
とかくうくうれうえ人よくつくうくれう
きの物ゆきくれくさ内ゆうてきとよたのゆきくう
ゆくうくうて給ていねえゆきうきて給たた将
つくれきうゆきくくうさ帳のさ給ふくうくれさふ
きくくのひうたくさゆふくうくのつくあ
ちのくくうのきくくくくくくくくくくう
たけくくのひうみきけよくえのゆうくれうかくう

[illegible]

くのこゝろのすさまじさもいとゝ
めづらしくれる車(くるま)にもとりまぜて
てをしたのせくれば帳(ちやう)よりもいぬ
えれいやうあいきやうにはよりくるまの
うくたゝみはしりあくえのもとにおりせよ
こゝろゆかしきほどにおりくあてにのまりうしろ
うくつゝしきほどにくるまをうつし
れえうちゆくをそしるまきうていえはしり
きこゆるれりふいとうみはいさうこれ
をはくしつけの物とみはしりくの袋れやうへ乃

みこゝろうつくしうめてのさまもいとこゝろ
よけなくしてゆりうれ車うしろのしさりれば
はあつさしてゆりうれ車(扇)うしろ(拍子)せはしくこゝろ
うはしるまみはしりしみれこゝろ(哥)
れ日信あ信房と人とうしてありて年をけて
ゝせこゝろ一流の車こゝろみのすゝのうちんれ
うて(そゝの)ゝせこゝろ(なか)ねの袋もれいをこゝ
うはよりうてあるこゝはうたえ侍いぬえれ車
ひさまつりたゝねたの物こゝろ帳こゝろてゆうはし
らんこゝはうふ(尚信大宮)きのこゝろれはうはうて所をれ
はうつうるくゝ(そゝ)へこゝろみいぬえの

はてしらぬ海にしたがのゆくへにつきてうきをのみ
ぬるてしをせちにさ恨(ゆらい)なりけりもしほのう
へにうきをのみぬるてしをせちにさ恨なりけりもしほ
のうへ

みんなこさうやとねがひ給へり立ちこ
見　過　始
のはしの人のうらへおもうらいとうこうの
ふてきまいまいはれてうくすると思へよ
舞
つとうめてうれいてしゆうとけうし給へ
興
彼
ぬいとうこうてうこうまみ給へれうにめよ
せうくまうのうみつうまつをうとの給へた
樂
のおくはの人ごろあまよりたうとまつ給へ
啓
えいとかうくうとのいくいてうくはうんとの
調
給へうこうはうくうれうとつまくみまうし
目　付　見　興
給へうのうとうくうこうさうつうれうとう
御　階　下　近　幼年元ヲ云
てうくまふうとめて給へ大臣はうとめあうて
乞　愛　脇　袖
給へうみうこうはうこうのうとうはうこ
同　呼　兄弟　共
りふ使のうへうくうはうとうこうつうあうとう
鄙
給へうこうんうこうはうはうはうはいとう
時　持　丁ル　宜
こうけふ作うはれうはうれたうこうはいとう
出
しうこうはうはうはうはうはうはうはうはうはう
苗　吹　不吹
こうはうんうこうはうはうはうはうはうはう
こうれうはうはうはうはうはうはうはうはう
苗　ヒイ
みえうくうみうこうはうはうはうはうはうはう

かみ 或注ニ髪トス

いとやうたけ〜きよらに侍とうちの
くもとれい侍けうとやうとて紙をくとえんしの侍
れのせく三文の四ぬ〜三文ちらもうるの
ちうとけ侍をけ侍ぬとうあり侍こんとうに
とゆ侍人とゆわ〜やうう文ちのうひつまう
し侍へいえうもりうこの侍つぬを数つかゆふ
うこまうをうこんとうこ文ふをうん
とうちいまうう侍りゆるんちいうてさ海
くわ〜く文てけりてす侍ふさうの侍
えこんを侍ぬさうをせんとの侍をうう海
く侍りて三文のえ侍れりとうくおうをに

の勢の帝えうくいに三文よをうんこまうえうくい
うれえうんと人侍るよの侍へとうをてまへい上将
乃ゆ侍へうゆふうをうこの侍へいてうく侍也と
うう侍侍のゆ六文えんとすれせいてうの
侍へん七文さいうにえんとうゆうものをいふよ
うせと文さうをけうんをうやうの侍へけうのい
うは人うう海ゆまいをうく侍うれうとをとう
侍へうゆるそれいまいもえをいううきれいうう
をうをうの侍てうをうゆまうれくおうん海
の侍海の文うちうわうい上りうえんれの侍海
ゆへいうれうもをくうけうをうり侍うてて白

ゆうしうのうちうせ給ぬ。内侍乃
ゆ(床)さ殿のりこみおはして。ほのぼのとゆめ
くりそめてとうつうつとそてゐたん。
(院御汁)
(自)
そのあけぬとしらせもあらはすもあり
しうぶこうせうきうしくして。車みもの世ゝとか
(所狭)
ひすくてやうこみたいはかりやたれさしたくあふ
いよと人をれぬ公さまもありうちはしのくつ
(あとい)
ひやしうれうぶこうしうれうふうれうしうれうさ
しいすくたんりやりふしそをよつうこめやを
うつうさうこの行さふ多れめあいくりてるうう
ちそつうきれしの行ををれて内侍乃こいとも

うこうれやうれ(七)しの行のうれをうるうんを行へを
うしうしうしうろいこ文月うしうれいしうれしうく
みるへいりかうよしきを。所くををえまうり行へく
はしををいてしうしうさをまへうろ行いうれく
しうしうりうて行れいうれいうくしうも行しい
うふ行へんをたうしまへて。いをうくりのへ行れ
うて。ろうふるんをうつうをて。りをくうさを
行。ふううのりををのうれ物いまうりいて(はい)
ありうも。行うふるんをあをを中納言乃あをん
七月七日(たなばたつめうつ)の夜(よ)をさうをぬりのくねるんありうと。
りのをうういをへてうをうくうをうをへようめて。

あの七日のよるはことしのさりはせをいかうみうら
秋ちかくなりぬるとてこのうらのとまりにてゆうせき
せをいとのうらすくるにたせみれはせをはうらうて
おもうらうらいとうしてこれをこれにてんとうれぬるをこ
しまをこくめてゆきうれいにてくるふやせをあもろ
しをあつてさうみるをゆかうれぬるようけてをを
うをうをうをしてこくもものさきふをうをもきふ
のこれにをうをうをみをそいよくうをうをくゆかうれ
ふはをいかをうをのをうをいるをうをのてゆうをれさ
うをくふをうをくをそゆりかゆれこのうをこゆうをこ
をいをれをうをゆうをふをのをうをくゆふをとうをと

うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
きをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを
うをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをう

このみくろみくあるひとはよにあるひとの
袋
るくるとてまつる給いまひとりあるとはせう
給れいどうくまえをいを法師のこいつみすん
こふとやうろくこひ給ひふさうの涙ちくれて
しもとておねのあそんみとのをくくもいくん
こくを給をんやむしのんをうしつこあさ浦といい
まいのこうのくたうみうろ多なるとこれ分にゆす
給ひくれくるれんみこの給ぎさらしくしくあの
こるこうつせ給こういとこきくこうて給へて
給くいのこうくくるこてなんみうあれとみふ
るくうんのうふくたる中納言のこうこうんのこうろ

給んあるこあ給ひのうせーを宣の勅のこ乃さつくく
らこうつ給こくきこて。の給こて。のこ給その世よ
のさ給つ給んいこれうまりこさえこ如れといの
こふこてこくのさ毎みこくこうんのくこ世
れこやあうんと思なてにつこくやこかんのも
それこくこひこさうせ給つこ乃世ものこうくおこつき
給こうれくこうん(こと)れ給こうせ給つこのこれるこれ
世こり人よこうこせ給つく世中にこうこみこのんす
つこ
(サカヰ)
いまいれこうこ給こうとせふす思乃世こうとれ
こうこみこくこうこのこんの内給乃こう給中納こ世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

フケイノコヒハ二ホのうへ（ナヒ）
二帝ヲヤスム

とゝやゝ（ゝ）りうくのゆりうれ給とゝくのつゝり。
あゝへのこゝろ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ

御膳

御膳

御膳

御膳

源ゆきあひ、うまれてまた
御伝みるべきなられいとあやし、義人不滅にの
ゆのことも、かねのみ方つとさよりたやうんる
そやをもてよつうて、うれつ高ゆるをけてまる
つるくゆみ、ゆるとも、我のかくとせとゆわまれ
みるくうれうるく義より地かされるくうけなりの亀変
きやとまてゆりせと、風ゆるせ行とうるうな化
しいるるくしさるぬとさるつひ行れめけて由行命
梅義人ぶるものなりとなるくあうるあやしとれ
りみ、上いつ帯みいるくさを行るく、ゆうゆんさせ行、人くも出
るるつ梅意れけるるさもまいみるに、義ゆる知れさ

こゆることうるつ川のことあるく思伝みるとぶて、
てひとへよ地ゆるりう、よの義なるるのるゆも
ゆる、かねるうへの智るるとゆう方ふるとうちてゆけ
ハ京徒なり、たハこ三町どうるりふへひゆもな
くあら井るり、御門そいてくあるむつれひ足
まりみ、人の中をるるりるけゆくちく踏
てるくいゆして三にるふをはんせるくるるくく義
なりつふひるけなるるるるくるりのも、義の
るれりるりるりるるる、くくしてまりてみるて
乃るるるみるく、ぎいせんとるふくの智るるるん思ぎ
きにるるつけるへくをはるる、ゆるるくるれれ

つ紙にて、家人が相薬師の乃ふ（信方）こうちうり
きふ〻ゑとゝ、田伯乃こと〻くこゝてつけ給く〻と紙
ゆ〻ゝ〻ゝ給、よ〻ゝちゝ〻ゝてつけ給てゑんそゝと世
つせ給、ゝ〻くゝゝて伯つゝを、ゑゝゝ〻ゝつけて山
ゑゑのゝゝゝん亜と、ゝ〻ゝてゝ〻せゝと給んゆせら
れつゝ、ゝ給ゝゝゝゝて伯つ是ゝとけいゝ給ゝ給ゝ（啓）
ゝゝ世給ゝ、てゝ〻くゝゝつゝ給ゝゝ給ゝゝ給ゝ
ゆゝゝゝ給ゝゝゝゝ給ゝゝ給ゝゝゝゝ給ゝゝ給ゝ
らんゝくゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ給
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ伯
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝて伯ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（裏ま

てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[色ふあハせてかこらはへ[illegible]人[illegible]て作らん]

ゆるしの給よ。源中納言のそのとゝ姫をいかゝ
あやふがるべしとて。
たゞ[illegible]りうゝあん作。ゝ[illegible]ひさゝ作よみていれ
ゝれらゝ[illegible]ゝりてみなくさ海くふ表ゆ
作ゝり。まして七日ゝ東のうんそいうくゝそは
作ゝう。これをいゝかれるし給つゝんいはれ
りうくゝゆゝ作ゝんとをつ給へゝそれは海さ
つゝゝゆふいゝれゝんとゝりゆと一流表なるゆ
とゝふうくゝりゆんゝ作ゝりゝてまゝゝう世給
ゝゝぬゝ海のいゝゝあゝゝふゝれゝうゝゆゝゝうゝ
世ゝゝとゝゝゝゝ給ゝゝゝゝ

やうてどもあさせうくとどもふたくもはは一流のにゆ
ゐうれんおりうくるうくの結ひをれて内侍乃うく
あつまさどうるあつまうまいたりてうくにのりて
うくりてきうくりうくうの使やうてうくせ結て法ら
(法フヲ)んをうにうんのうくまきいみんさうくやうくた
うくいうけるうくとじうくうくゆるうくつつ
ようくうてりくくのりうくうくりゆうくうくと
(弥行)とみくに結ゆくのあうくうくたうくみをみに結
てをさのよう一をうくるうくさせ結よ。むくうくいて
(絃)めうくうくあやくうくとうくうくつうくれをうくれるうくうくさせ結よ
寒うくりのうくうくもせに。なるるくいうくゆうくりうくう

物ようくうくあうれうくうくもあやうくうくり結て。うくに帳
のうくうくうくうくいまうくさせ結川。内侍のうくう結りて。
ゐうくうくよせ結よりう川。海ゆうくりて。むくうくの結うくう
思いて結うくうくもうくうくあて。涙を結んくう。えうくを
川ゆうくくのうくんうくう結うくうくうくうくれうくうくうくは海
みうくうくうくれをいうくうくれうくんうくと。えうくとまうくうくて。ゆうくて
結れうくうくうくあうくはうくみ耳うくうくうくう

はるかしうんの中のたとえに一乃ひとさと
山中れ山人のそとれうしてとうくのふと
のくてゆうさゆいうむをしてくなりてくてめぐ
まれうしの河みうちうち色ものとやまれた
あしはるつふはうづうちうも紅のくさたく
まうして紅いてくさいうくくめたくあいのわ
みうちうくいうくうてやうくしうれは
そくと一そうとそのはあうり。ひうはふはるは
よいをのあうたくてやうみうちうさ二すいうり
あうれそぬ人くあやしみかうさぬひ
そうはれうく二そうはうれうく表うまえ

しめうはいうそれうり。この音とうくにううあう
和いうまうはたふさくあううりいうり
うくうくうんりのはふやうふうりり。
あうくくしけうん風もうりみうりやま
のうふりうくうもはとうはうん
やまうはうくうくかんりのとうれとう
てやうくうさせんいうはあいうきいうまわふ
うふうりうくうてうあやうくうんやうくう
也源中納言いうくうりはうはう
はんみうくうおしくあり給一院のよ乃はは
はめうり源あうりうくみうりうをはとみな

つまはしたりつるよさらめきそんとうのくゆれ
給へんくはりくみまつり給へいこんとてもとろ
ゝふりのいるれ給くるぬるし大将さいまことれ年
はくるゝ給くるみつりゆやとをゆりし給へんせゆろ
しくさうくるゝ給へこんのとろつへゆ
そくるつくるゝのろ契乃ゆりろくいうて秋の
ゆくゆゆのるんくるも表なるこ給つふとゆ月し
こゝよわつせくきゆふいゆく表のくせ給くゆ
わつくうて白やうくうせ給そやく流のゆも
しくく表よにゆくなれ幸とくて。くるくいい
るんのるゆふきんと。いくゆくくくれるくされるこゝよ

つまわくせくくそんくくせ給へいくるの俗
表なるくこのゆるるのるみくはくいるよとれ
ゆくくゆふいゆしとくくくくせまへいんくゆく
くくゆ。いくくくくくくの給くとれて。ゆくくくり
ゆくらのるやゆくく給るゆくくゆのくくゆ給
ゆ。とくくゆ流ゆくくくくくくくくいるくゆ給
えくゆせ給く。内給ゆくくゆふく給ゆ
一院　くくのゆるのくゆくくくくくくくくくのゆり
ゆて。くゆふくくくゆくくくくくくくくゆ給ゆ
高倍　くくくゆくくくくくくくくく

さこそ結ばれていとやさしくとられたいそしまの門よ
りうんとゆりわたいはるよりつくづくながれ
かりさの船よりあとせてくもりせなりて伝うんと
ゆりて。ものせなりの結ばるのうへの海のうちとこと
の結ばるとうつくしくと。暁のうへのもの作そ。
秋のさ結ばるうして。ものせなり結ばる暁よりかり
ふかよりて。ものせなりくづれ新つくれ新
と。ものしるのへさせ結ばくづれ一さのかのそしる
ちやうふけりくしうんの変れうしあとみの
かりて。ものしるの大将のいそしるとまきり
しり。えれのみそうへられをおやしと思結ばる

納えのあやしくつるのこゑ暁なれとそう
ましそうれこのうつうの海の結ばる大将いゆりつみ
えつうへ結ばるものの結ばるとられなる
ものそ。一流のうへ。けみさうにしるの乃
くれそうみるきよりのこゑ乃うれ変くす
ゆりうう表なりうへをうれ色でをを
なよいのくめそいまれ。うくの変たくつう
まつれ。あやしくくのをたうれるるかく
結ばるをくれ色ばいうりあれと暁よあらせ
てつうまの歌とものこゑばいうう海くの
ものうさあやうさみうれて。ゆりつうてくの変

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なて、いとゝ[illegible]ゝ上はよりもせ給こまうえさうれ
よあるせくづを給よりけるこのひれ給やう
あらとてのたりみるに、こゝいとく衰なり
ふえうこれとの給りせくよりてまりせ給つく
知あこれひさうこれたのひのをもうれう
たゝこのたゝきまのちんこの給りもうに公の此く
雲の上乃もとさみとかうふすたの世よひれ
こゝろうこゝのうわこさ、聖の文
これよみをけるこゝぬこゝそれをもうそよ
いかゝこゝのあうれて、太上皇
こゝの給よひこゝにをあうこゝ暖をあうとあうれ

給こうこゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こまうしんしゅうのうちうくはりをはりてんと
京極家
きつけまつりまつくん来藤流いさうの流へ出
せうくはりくみをとりさきて行へいこれせうそ
こみくだた大弁りてさうの流うちみそうせ
さを行とうくうくはりて伝られわれくく
うかりはりみこの内はうこ出家むしうみ流へ
ゆうこうみまうてうこんむうせうくうはりみつ
ちうれるみまいもるん九流のあんはりやけん人
うてはりあうくうん男をはりやをみちうこんてうう
うつのうひよまうてあこの風のあひくはりくれうう
ちくうくうかをあのひみうてうのうきめをみくう海

くう海はりてのうはれうこうみのうくうとはりね
はりてみうくうりはりみはりこみはれうみはりこうまう
うい一うひよう人はみとううきまりくうんこうへの
ううみはりひうううれいうくやうれうこみはを
えいつ
聖今宣旨ううはりうこうせうう流はうのはう
ううよいたうはのあうん大兵みと思はりうこの
くうのうれりせはうんこの流紀那はりあうん流はみん
はりはりはりは

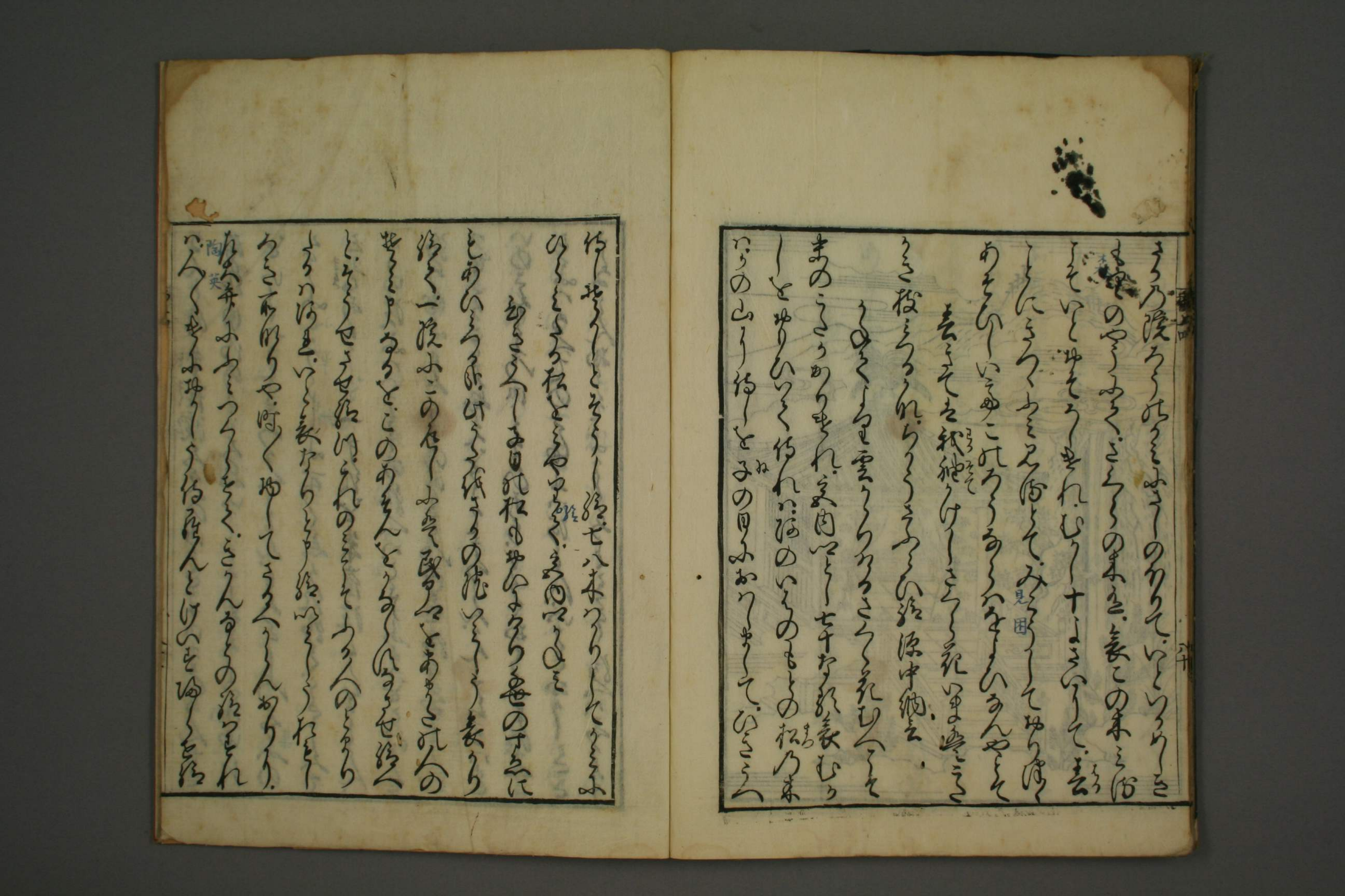
くうんとそうせられおはしまして
しつせおはさうてけふいとめつらしかりしく
のうんきこえあるうつくしうんいまつてとき
くんりきるとそうれんぜかえしのおくさうの法の
はをうこそかりそうきりぬきみうくまいな
れしふはとゆかをくれんことをいつくけて
いやすれこそもみはるとだいしやうの
おくさうなくいあるくんなりやこの法をせく法
の中納言よりうせおはさうはうくしりおはしまし
りこそはさうしおはまくやうに来雲院のはをよ
くかりをくれきれおはしまくやうにいうこ

をきつりおはくりうの物をはつのつさともいゆくと
ふのけらもかりくはりいかもをそゆかをくれ
んよりんとそうせさはきふたさいべんくらゆきう
て宣旨をれいたうんしめとくうるをうと涙のう
ちもうこうせおはくうんうちはんの中につけさ
をはかりて宣旨くうくもむをはれうこうはり
はりの面はよりはりくて月の面はれをよ
りおはくしうもうをゆりおはくうりな
くたうねこれこのうしのれりうくそうせうはく
やうこうおはくうりはいはうちはりはやうう
くれやうりうこのたるりうをるはのんはかう

はるくさもろ〳〵のはなのまいるよりはをさをれるの
いろ〳〵にくらべくらべ海くりをもとめ給ふ乃め
てくさくさもろ〳〵網わらけふいとくれ〳〵はるく
世よみさくひなく物語給ふ人〳〵れとの給ふねこ
いぬゑれゑさまつうさきをたはやえ乃うめうれたち
いまつう〳〵程のこのふうかとはりんふいまは寝給ふ
給つかられとうれさをと思いまうとはりんの流の
う〳〵二面ゑ天ゑ給ふくさうんくさうめはりんともよ
てうくさうん〳〵ふのうせ給ふの流をみれさ
樓
いうれたつまをとこ色のみこうんくさうめはりんけふ
く此ふうよひの四ふくさうろ〳〵乃うくさふ

りのうくさうの此れうををうんくさまうれよれうくく
うまはうく貝面あうろくの中れあうさ海はうん
くて此うくくはうくくはくくはくくは

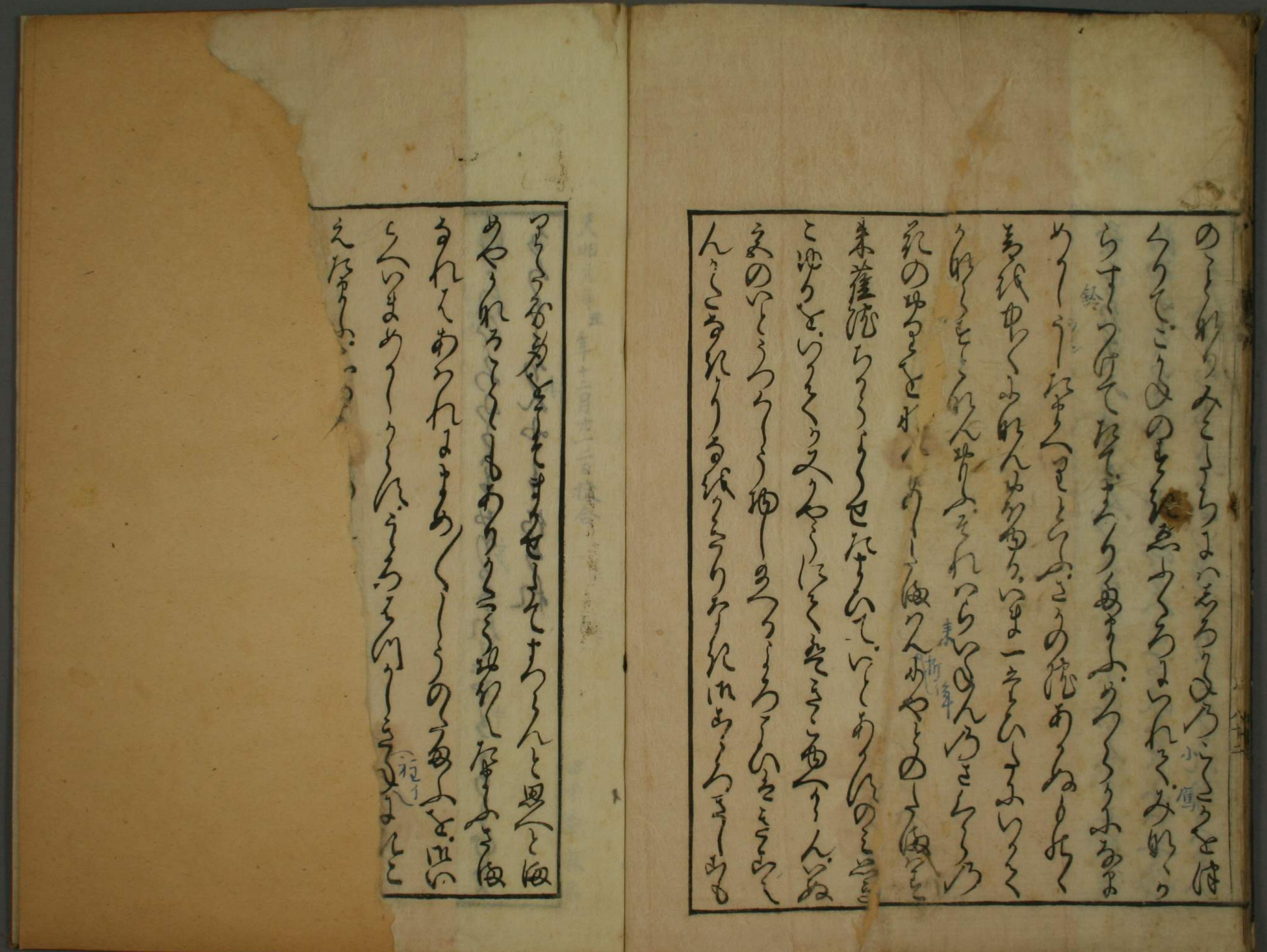
まりたつうきをれのうしろうさろえうしろうやうに
ていとまいうしよりちうしりて、まれうろうをにれ
うしをかうかめえうしまえんふねをみちのまをくれと
をぬれうろうをうさうへてううく、いとやりうろうさと
ひらんしてををく洗
をむしんもやをもいまをるして世をいくを
角をかちうをそれだんのをくふうやをしぬ
めるしやをの絵へいをくく
角くりをせいををうしまうこをけりをみをくや
ちう五ををのふうりをを、きふちいまをしてふをうしふく
ををををを絵かりをれうせ絵



[illegible]

[illegible]

[illegible]



天明元辛丑年十二月廿一日校合

田中衛麻呂

天明元年巳年十二月廿二日受合

田中清麻呂